

白血病の分類

	急性	慢性
骨髄性	急性骨髄性白血病	慢性骨髄性白血病(CML)
リンパ性	急性リンパ性白血病	慢性リンパ性白血病(CLL)



白血病の治療を続けている熊谷さつきさん(東京都千代田区)

「不治の病」認識改めて

治療薬開発進む白血病

B242
白血病は「不治の病」という昔のイメージを引きずっているため、患者や周囲の困惑が続いている。だが白血病は現在、多くのがんの中で最も治療が進んでいる分野の一つ。新薬が次々に開発されており、慢性リンパ性白血病(CLL)の新薬も登場。完全治癒に向けて一歩一歩進みつつある。

日本血液学会理事長で九州大病院の赤司浩一病院長(病態修復内科)は「白血病には多くの種類がある。『不治の病』というイメージは映画やテレビでつくられたものだ。がんの中では白血病は内科医が治せる病気。薬だけで治る可能性があり、治療薬の開発がどんどん進んでいる」と話す。

白血病の罹患者数は全がんの中では1・4%。急性と慢性、骨髄性とリンパ性があり、その組み合わせで、大きく四つに分かれ、治療法もそれぞれ異なる。

治療は化学療法(抗がん剤)などの薬剤療法と骨髄移植の二つがある。

「今までの薬剤療法の主流は化学療法による『じゅたん爆撃』で、正常細胞も損傷を受けて。今は目標だけを狙って、再発・難治の状態になった

分子標的薬の時代になってい

例えば、最初に分子標的薬が使われた慢性骨髄性白血病(CML)では、早期に病気を抑えれば、服用しながら普通の生活を送れるようになった。患者によっては、薬の服用をやめることを目指した治療を行う時代にもなっているという。

新たに登場したのはCLLに対する分子標的薬「ベネトクラクス」(一般名。CLLは白血球のうち、リンパ球のB細胞が増えてしまう病気で、60歳以上が多い)。

「この病気は、薬を組み合わせたことで白血病細胞を駆逐し、十分コントロールできる。8割ぐらいはコントロール可能で、白血病細胞が再び増えてきたら、再発・難治の状態になっ

CLLもコントロール可能

場合にベネトクラクスなどを使うことになる」

ベネトクラクスは経口薬で、これまでの分子標的薬と違って、白血病細胞を細胞の自殺である「アポトーシス」に誘導して治療する薬という。

九州大大学院の菊繁吉兼講師(応用病態修復学講座)は「CLLの治療は劇的に進化しつつある。ベネトクラクスの登場で治療の選択肢が増えた。病気の治癒が期待できる時代になりつつある」と話している。

患者の熊谷さつきさん(北海道在住)は記者会見し「14年前、40代後半でCLLと診断された。今も治療は継続中。白血病と告知されたとき、余命半年と思った。周りの人に言えなかった。図書館で調べて初めて白血病の種類があることを知った。自分の経験が誰かの役に立てばうれしい」と話した。

同席した血液情報広場・つばざ理事長の橋本明子さんは「白血病の治療薬開発が続く、とてもいい時代を迎えている。治療薬がたくさんあることを社会全体に知ってもらいたい。家族の安心感には本当に大きい。『不治の病』のイメージは変えてほしいと思う。治った人は社会復帰できる時代。白血病と診断されても諦めないで前に進みましょう」と呼び掛けた。

治療薬開発進む白血病

CLLにも新分子標的薬



白血球の治療を続けている熊谷ふさ子さん＝東京都千代田区

「この病は、薬を組み合わせたことで白血球細胞を駆逐し、十分コントロールできる。8割ぐらいはコントロール可能で、白血球細胞が再び増えてきて、再発・難治の状態になった場合にベネトクラスなどを使うことになる」

例えば、最初に分子標的薬が使われた慢性骨髄性白血病(CML)では、早期に病気を抑えれば、服用しながら普通の生活を送れるようになった。患者によっては、薬の服用をやめるこ

とを自指した治療を行う時代にもなっているという。新たに登場したのはCLLに対する分子標的薬「ベネトクラス」(一般名)。

CLLは白血球のうち、リンパ球のB細胞が増えてしまう病気。60歳以上に多い。

「この病は、薬を組み合わせたことで白血球細胞を駆逐し、十分コントロールできる。8割ぐらいはコントロール可能で、白血球細胞が再び増えてきて、再発・難治の状態になった場合にベネトクラスなどを

とを自指した治療を行う時代にもなっているという。新たに登場したのはCLLに対する分子標的薬「ベネトクラス」(一般名)。



血液情報広場・つばさ理事長の橋本明子さん＝東京都千代田区

B242 「不治の病」認識改めて

白血病は「不治の病」という昔のイメージを引きずっているため、患者や周囲の困惑が続いている。だが白血病は現在、多くのがんの中で最も治療が進んでいる分野の一つ。新薬が次々に開発されており、慢性リンパ性白血病(CLL)の新薬も登場。完全治癒に向けて一歩一歩進みつつある。

	白血病の分類	
	急性	慢性
骨髄性	急性骨髄性白血病	慢性骨髄性白血病(CML)
リンパ性	急性リンパ性白血病	慢性リンパ性白血病(CLL)

九州大学の菊繁吉兼

で、これまでの分子標的薬と違って、白血球細胞を細胞の自殺である「アポトーシス」に誘導して治療する薬という。

「この病は、薬を組み合わせたことで白血球細胞を駆逐し、十分コントロールできる。8割ぐらいはコントロール可能で、白血球細胞が再び増えてきて、再発・難治の状態になった場合にベネトクラスなどを

とを自指した治療を行う時代にもなっているという。新たに登場したのはCLLに対する分子標的薬「ベネトクラス」(一般名)。

CLLは白血球のうち、リンパ球のB細胞が増えてしまう病気。60歳以上に多い。

講師(応用病態修復学講座)は「CLLの治療は劇的に進化した。ベネトクラスの登場で治療の選択肢が増えた。病気の治療が期待できる時代になりつつある」と話している。

患者の熊谷ふさ子さん(北海道在住)は記者会見し「14年前、40代後半でCLLと診断された。今も治療は継続中。白血病と告知されたとき、余命半年と思った。周りの人に言えなかった。図書館で調べて初めて白血病の種類があることを知った。自分の経験が誰かの役に立てばうれしい」と話した。

同席した血液情報広場・つばさ理事長の橋本明子さんは「白血病の治療薬開発が続き、とてむい時代を迎えている。治療薬がたくさんあることを社会全体に知ってもらいたい。家族の安心感も本当に大きい。『不治の病』のイメージは変えてほしいと思う。治った人は社会復帰できる時代。白血病と診断されても諦めないで前に進みましょう」と呼び掛けた。

治療薬開発進む白血病

CLLにも新分子標的薬



白血病患者の熊谷ふさ子さん(東京都千代田区)

九州血液学会理事長で九州大病院の赤司浩一病院長(病態修復内科)は「白血病には多くの種類がある。『不治の病』というイメージは映画やテレビで知られたものだ。がんの中では白血病は内科医が治せる病気。薬で治る可能性があり、治療薬の開発がどんどん進んでいる」と話す。

白血病患者数はがんの中では1・4%。急性性と慢性、骨髄性とリンパ性があり、その組み合わせで大きく四つに分かれ、治療法もそれぞれ異なる。

治療は化学療法(抗がん剤)などの薬剤療法と骨髄移植の二つがある。

「今までの薬剤療法の主流は化学療法による『じゅつたん爆撃』で、正常細胞も損傷を受けた。今は目標だけを狙う分子標的薬の時代になっている」

例えば、最初に分子標的薬が使われた慢性骨髄性白血病(CML)では、早期に病気を抑えれば、服用しながら普通の生活を送れるようになった。患者によっては、薬の服用をやめるこ

とを旨とした治療を行う時代にもなっているという。

新たに登場したのはCLLに対する分子標的薬「ベネトクラクス(一般名)」。CLLは白血球のうち、リンパ球のB細胞が増えすぎ、60歳以上に多い。

「この病気は、薬を組み合わせてすることで白血球細胞を駆逐し、十分コントロールできる。8割ぐらいはコントロール可能で、白血病細胞が再び増えてきて、再発・難治の状態になった場合にベネトクラクスなどを使うことになる」

ベネトクラクスは経口薬で、これまでの分子標的薬と違って、白血病細胞を細胞の自殺である「アポトーシス」に誘導して治療する薬という。

九州大大学院の菊繁吉兼



血液情報広場・樋本明子理事長(東京都千代田区)

講師(応用病態修復学講座)は「CLLの治療は劇的に進化した。ベネトクラクスの登場で治療の選択肢が増えた。病気の治癒が期待できる時代になりつつある」と話している。

患者の熊谷ふさ子さん(北海道在住)は記者会見し「14年前、40代後半でCLLと診断された。今も治療は継続中。白血病と正しくされたとき、余命半年と聞いた。周りの人に言えなかった。図書館で調べて初めて白血病に種類があることを知った。自分の経験が誰かの役に立てばうれしい」と話した。

同席した血液情報広場・樋本理事長の樋本明子さんは「白血病の治療薬開発が続く、とてもいい時代を迎えている。治療薬がたくさんあることを社会全体に知ってもらいたい。家族の安心感は本当に大きい。『不治の病』のイメージは変えてほしいと思う。治った人は社会復帰できる時代。白血病と診断されても諦めないで前に進みましょう」と呼び掛けた。

B242
「不治の病」認識改めて

白血病は「不治の病」という昔のイメージを引きずっているため、患者や周囲の困惑が続いている。だが白血病は現在、多くのがんの中で最も治療が進んでいる分野の一つ。新薬が次々に開発されており、慢性リンパ性白血病(CLL)の新薬も登場。完全治癒に向けて一歩一歩進みつつある。

	白血病の分類	
	急性	慢性
骨髄性	急性骨髄性白血病	慢性骨髄性白血病(CML)
リンパ性	急性リンパ性白血病	慢性リンパ性白血病(CLL)